

F LYING

F ISH

57

2013 WINTER

[フライング  
フィッシュ]



INTERVIEW

渡邊高志教授

まだ見ぬ可能性を追い求めて  
「植物の力」で高知を  
もっと豊かに!

NEWS

世界を知って、自分を知る。  
「海外インターンシップ」で  
グローバルビジネスを体験!

Flying Fish Festival 2013  
テーマは“あい”

“宇宙”がテーマ! 地元土佐山田町の冬の風物詩  
KUT+illumination' 13

KUT INFORMATION

本学初! 未来の官僚候補誕生/CIC3大学が合同科学教室開催/秋季卒業式・学位授与式/交通事故講演会開催/土佐山田を明るく元気に! 「第2回おはまる市」開催/つながる輪 ナノテク研シンポジウム開催/地域活性化システム論開講/防災訓練実施/「セユダル号」高知初寄港! 165名と日韓大交流/おいしい「食のキャラバン」大好評のうちに閉幕/高知大学と初コラボ オータムコンサート開催/起業家コースがハイテク総会開催/環境保全活動活発に/数学っておもしろい! 高校生のコンクール開催/現場から建築・都市デザインを学ぶ「企業見学会」開催/廣井勇博士に出会う旅 in北海道/高校生英語即興スピーチに本学学長賞授与/硬式野球部が新人戦で準優勝!/卓球部、原 佳菜絵さんが全日本学生選抜選手権出場権を獲得!/毎日が国際交流「International House」完成!/学生、教授らの2013年秋冬受賞者発表!等

表紙のコトバ=プラントハンター参上!

世界中を駆け回り、あらゆる植物の有用性を知る渡邊先生。「植物くん」と様々な世界を結びつけるべく、新しい発見とつながりを求めて、今日も走り続けています。



# 「植物の力」で高知をもっと豊かに!



わたなべ たかし  
渡邊 高志 教授

地域連携機構・補完薬用資源学研究室／総合研究所・薬理工学研究室

## 知られざる植物に光を当てる

「これはサワフジバカマ。和え物にしたらおいしい」と言ったかと思えば、「オトコエシは肺の病気に効く。天ぷらにしたら最高ですよ」。渡邊高志先生と一緒に山を歩けば、おいしく健康になれる豆知識が次々と耳に飛び込んでくる。

「本に書いてあることを言ってるんじゃないですよ。今までに出会った植物すべて自分で実験して出した結果ですから」。

日本に自生する植物で見えていないものはほぼないのではと語る渡邊先生は、本学地域連携機構で補完薬用資源学研究室を主宰する。高知には2007年に移住し、県立牧野植物園・資源研究センター長を経て、2011年本学に着任した。頭の中には膨大な植物データベースが蓄積されていて、有用資源か否かは一見すれば大体的見当がつくという。

薬学部を卒業したが、薬剤師の道には進まず、もともと憧れていた農学分野に身を置くために農林水産省果樹試験場の研究員として薬用果樹を学んだ。「この経験によって、食

と薬用が結びつき、漢方の世界に入っていくきっかけになりました」と語る。世界中で環境破壊が進み、その効能を知られることなく絶滅の危機に瀕している植物も少なくない。今見つけ出さなければ永久に出会えないかもしれない——渡邊先生はそんな思いに駆り立てられ、青年海外協力隊隊員(58/4次隊)としてネパールに赴任後、30歳で帰国した。その後長年にわたりブラジル連邦共和国アマゾン流域、ミャンマー連邦共和国、ソロモン諸島など世界中を探索し、誰にも見向きもされなかった植物の中から資源としての有用性を探し出してきた。

2001年には肌を保護する「ヒマラヤ産リンドウ」を使用した日焼け止めクリームを国内メーカーと共同開発し、大ヒットに導く。その傍ら、原料となるリンドウを現地のネパール人が栽培することで、収入が得られる仕組みをつくり、地域に一つの産業を誕生させたのだ。

## 人の役に立つ植物で地域を元気に

高知県は全国有数の植物資源の宝庫。国内に自生する約6000種の植物のうち半数以上があり、その1割が有用資源とされているが、ほとんどが未開拓の状況だ。「植物をじっくりと見ていると、1万円札に見えてくるんですよ」と話す言葉の裏には、ヒマラヤなどの開発途上国での自身の成功例をモデルに、高知でも有用植物を利用して地域に収入をもたらす、活性化につなげたいという思いがある。

そこで県内全域で植物を集めて一つひとつを調査研究し、5年の歳月をかけて、有用性が期待出来そうな約345種の植物リストを作成。それをもとに県内の大学と企業、そして高知

多忙な日々の合間に谷相地区で農作業を行うのは、海外からの輸入に頼らず、国内で自立した漢方原料供給を実現したいという渡邊先生の挑戦でもある



県工業技術センターらとコンソーシアムを形成し、協働で機能性評価及び用途開発に取り組んできた。また今年度から高齢化が進む香南市西川地区で、観光・産業資源となり得る有用植物の栽培やそれらを利用した特産品開発に向けたプロジェクトを開始し、住民の収入につながる可能性を探るなど、地域に根ざした活動を幅広く行っている。

他にも全国各地で化粧品や健康食品など企業との共同研究も多数。国外ではソロモン諸島で医薬品に応用できる植物資源を探索したり、ネパールとパキスタンの大学で教鞭を執るなど、世界中からオファーが絶えない。調査サポートなどを行うスタッフの村井亮介さんは、「いつ寝てるんだろうと思えるほど、先生は研究熱心で努力家です。寝なくても元気でいられる薬を自ら処方しているのかも(笑)」と話す。めまぐるしい日々を送っているのに、常に自然体で余裕すら感じられるのだ。

## 植物のように根を張った活動を

どんなに多忙でも、調査や研究という枠に収まらないのが渡邊先生らしさ。2008年には県内でも特に植生豊かな香南市谷相地区を拠点とし、地域の人たちとともに「ローカルデザイン高知協議会」を立ち上げ、有機JAS認定圃場を開設。オーガニックのハーブなどを育て、ハーブティーやハンドクリーム(Organic Cosme)といった商品開発を行っている。

また、2012年5月には本学近くに地域の植物資源を活用した漢方・生薬喫茶「座文」のオープンの後押しした。村井さんが店長を務め、スパイスをたっぷり使ったカレーなど、おいしくて体にいい食を提案している。渡邊先生はカレーのレシピを指導する

など、味にも人一倍厳しいが、「おいしい食が何よりの薬なんですよ」という言葉に納得する。こうして種をまくように拠点を増やしながら、植物と地域のいい関係を模索する渡邊先生。「淡々と継続していけば、徐々に変わっていくんです」と決して焦ることなく、その先の未来を見据えている。

がんや難病の特効薬になるなど、人間にはない不思議な力を持つ植物について、「人間が勝手なことばかりやってもじっと我慢して、自分の身を投げ捨てて私たちに助けてくれている。神様みたいなものですね」と深く敬意を払う。地球上にある約23万種のうち、渡邊先生が標本化したのは約2万種。「まだほんの少ししか見ていないので、とにかく残る21万種の探究を続けていかないと」。自分のやりたいという気持ちに素直に生きてきた渡邊先生は、今後もしばらく息つく暇がない。世界中で埋もれた植物を探し求める旅は、まだまだこれからなのだ。



香南市西川地区の特産品開発に向けて、住民と一緒に地域を散策し、どこにどんな植物が自生しているかを調査し、学生への研究試料にもしてみる。まずは、住民が地域の有用植物について認識することが大切だ。

## 休日は“普通の旅行”でリラックス

「週末はしっかり休む」と決めているという渡邊先生。休日は植物から離れて、“普通の旅行”をすることが多いそうだ。四万十川でカヌーを漕いだり、京都に足を延ばして街並みを探訪したり。「旅行をしていると、いろいろとアイデアが浮かぶんです。それが一番楽しいですね」。リラックスした時間を過ごす中で、エネルギーを充電し、一挙に研究に展開していく。そのメリハリが充実した研究生生活を持続する秘訣なのだろう。

渡邊高志



渡邊研究室の研究員らが運営する喫茶「座文」。開業当初は毎朝立ち寄り、研究員の村井さんが作るカレーの味をチェックしていた。



TOPIC ①

## 世界を知って、自分を知る。「海外インターンシップ」でグローバルビジネスを体験!

## 山下茜さん

システム工学群 建築・都市デザイン専攻 3年  
実習先: 東洋建設 フィリピン営業所

## PHILIPPINES

特別編

次世代理工系研究人材交流事業  
「第6回 Summer Institute」  
韓国の先進的大学で研究交流日本の現場ではわからない、  
世界情勢を知る機会に

実習では月に一度行われている安全パトロールに同行し、建築現場3カ所、土木現場2カ所を見学する中で、気づいたことや気になったことを社員の皆さんに報告しました。今回の実習を通して、建築と土木両方の現場を体験できたことは大きな収穫でした。道路や橋を造る土木は、建物を建てる建築に比べて、人との距離が遠いように感じていましたが、実際はとても生活に密着していて、一度整備すれば周辺地域の多くの人を助けられるということを知り、土木にとっても興味が湧きました。工科大の建築系では、建築と土木両方を学べるのでありがたいですね。

国内のインフラ整備はかなり進んでおり、土木分野の新規工事は海外に進出しようとする動きがあるので、海外の土木現場を見られたことは良い経験になりました。またフィリピンでは鉄が高価なので、鉄筋コンクリートを使わず、建築物の壁などに強度の低いブロック塀が使われているなど、あらゆる面で日本との違いを目の当たりにしました。

私は今後、地震や津波対策を中心とした構造分野に進みたいと思っていますが、構造にもさまざま



な視点があることを知り、好き嫌いなく幅広い分野を学び続けたいという気持ちが強くなりました。さらには、日本だけでなく、世界中で起こる地震や台風などの災害にも注意を払っていきたいですね。今回見学した現場のうち、一カ所が韓国からの発注だったのですが、それに関連して、韓国のフィリピン進出が進み、日本が国際競争に負けつつあるという話を伺う機会もあり、世界情勢を身近に感じられるようになったことも成果の一つです。

特に土木分野を目指す人にとって、海外の現場を見ることは価値があるので、来年以降も後輩たちにつないでいくと同時に、こうした海外の現場を体験できる機会を自らつくっていききたいです。

実習期間: 5日間

実習内容: 建築・土木現場の見学

選定理由: インターンシップを行った東洋建設に、海外営業所があることを知り、中でもフィリピン営業所は歴史が古く、英語圏だったから

## U.S.A.

## 木原大城さん

大学院工学研究科 基盤工学専攻 修士課程 知能機械システム工学コース1年  
実習先: アメリカ航空宇宙局 NASA (受け入れ先: Clemson University)海外での実験成功が  
大きな自信に

ロケット観測の本場、NASA で現場を体感し、さらには自分の英語力を試したいと今回参加を決めました。実習では、地上での観測を担当し、カメラのセッティングから観測まで、すべてを担いました。15日目で打ち上げが成功し、実験は無事終了。毎日観測前に打ち合わせがあったことで、徐々に英語にも慣れてきて、専門分野の会話についていけるようになりましたが、日常会話になると難しい部分が多く、英語力不足を痛感しました。

その後は、観測を一緒に行った Clemson 大学の学生、ルーカスさんの実家に2泊3日のホームステイをさせてもらい、家族が集まるパーティーへの参加や地元の友人が運営するマラソン大会のサポートなど、多くの人たちと交流できました。最後の3日間は、ルーカスさんとその友人らの案内で Clemson 大学を見学。ルーカスさんと過ごす中で、日本について質問されることがありましたが、的を射た返答ができず悔しい思いをしました。日本人が日本のことを知り、それを英語で語れることの大切さを実感しました。



文化の違いを感じたのは、ロケットの打ち上げが延期になったときのこと。そんな事態になると、日本では念入りに原因究明が行われますが、アメリカでは「大丈夫、明日は打ち上がるよ」というラフなスタンスでした。日本が年に数本しか上げないところを、アメリカでは20本以上という規模の差も関係しているように思いますが、そんなことからアメリカ人のおおらかさを垣間見ることができました。何よりアメリカ人は積極的で、まずはやってみようという前向きな姿勢が刺激になりましたね。今後はあらゆる場面で積極性を取り入れて、何事にも前向きに取り組んでいきたいと思っています。実習前は外国人に話しかけると、おどおどしていましたが、今は挨拶や簡単な会話ができるようになり、英語への自信が生まれたことも収穫です。

実習期間: 24日間

実習内容: ロケットによって作られる人工雲の観測サポート

選定理由: 自身が所属する山本研究室が、2007年からClemson大学と共同研究を行っており、つながりがあったから

## 戸田達也さん VOICE

研修中は、研究環境の違いから多くのトラブルを経験したり、英語でのコミュニケーションの難しさを実感したりと苦労の連続でした。そんな環境下でも、自ら考え、ホスト研究室の方々と議論をしながら、主体的に研究に取り組めたことは、大きな財産です。異なる文化や考え方を持つ人たちと関わったことで、自分自身の幅が広がりました。

研修中に教わった実験手法を参考に、帰国後は同種の研究を立ち上げました。このプログラムで得た人脈を大切にしながら、良い研究成果につなげられるよう励んでいます。

2013年10月には、独立行政法人・日本学術振興会の平成26年度採用分特別研究員(DC2)に内定し、研究奨励金を頂けることになり、とても嬉しく思っています。来年度からはこの研究費を活用し、アメリカやヨーロッパに留学したりと、より積極的に外的世界に出ていきたいですね。博士課程を悔いなく終えられるよう、今後も知識の幅を広げると同時に人間力を養いながら、さらに研究活動に邁進していきます。



本学では今年度よりグローバル社会で活躍できる人材の育成を目的として、「海外インターンシッププログラム」を開始しました。今夏は9名の学生がアメリカ、アジアでグローバルビジネスを体験。今回は自ら渡航先を手配する「自主開拓プログラム」でアメリカ、フィリピンに赴き、実習を行った2名に、実習中に苦労したことや成果について話を聞きました。

## TOPIC ② 「あい」がいっぱい Flying Fish Festival 2013

10月19日(土)、20日(日)の2日間にわたり、本学大学祭「Flying Fish Festival 2013」が、17回目となる今回のテーマ『あい』のもと、例年同様、隣接する鏡野公園での「刃物まつり(主催:香美市商工会・刃物まつり実行委員会)」と併せて開催されました。

2日間とも、ときおり雨の降る恵まれない天候により、屋外で予定していたフリーマーケットやステージイベントが中止や、講堂・体育館での実施に変更されるなど、プログラム通りの開催とはなりませんでした。学生らの気持ちは失われることなく盛り上がりを見せ、恒例のアーティストライブやよしもと芸人によるお笑いステージにもたくさんの方々に楽しんでいただきました。

実行委員会からは、「愛」「出逢い」「挨拶」「気合い」など、色々な意味を込めた今年のテーマの中でも特に「地元愛」にこだわり、高知県で活躍しているグループやアイドルのライブ、香美市の子どものパフォーマンスなど、地元を感じ取れるイベントを数多く企画しました。皆様の間の「地元愛」がより大きくなり、地元をもっと応援していこうという気持ちになっていただけたのではないかと思います。」とのコメントが聞けました。

ご来場いただいた皆様をはじめ、開催にあたりご協力いただいた商工会の方々、関係者・地域の皆様、本当にありがとうございました。



## TOPIC ③ 「宇宙」がテーマ 地元土佐山田町の冬の風物詩 KUT + illumination' 13

12月1日(日)～1月5日(日)の1ヶ月間、美しさが自慢のKUTキャンパスをイルミネーション(約3万球のLED)でさらにロマンチックに彩りました。学生が主体で行うこの取り組みは、地域の方との交流を図ることを目的に行っており、今年が11回目。

月をイメージしたゾーンや星座をモチーフにしたオブジェ、さらには銀河鉄道も登場し、今年のテーマ「宇宙」に沿って、神秘的宇宙・壮大な宇宙・非日常をコンセプトに、デザインされました。

12月22日(日)・23日(月・祝)と今年は2日間に拡大されたクリスマスイベントでは、「高知コーラス合奏団」をゲストとして迎え、アカベラやジャグリングを披露するなど、訪れた方々をクリスマスモードに包み込みました。

また、12月23日(月・祝)の龍河洞クリスマスキャ

ンドルナイトにも協力、1億7,500万年の歴史ある龍河洞に3,500本のキャンドルを用いて洞窟内をライトアップし、普段とは違った角度からスポットを当てることにより龍河洞の魅力を再発見。来場者は、龍河洞の自然の造形美と幻想的な空間を楽しんでいました。キャンドル教室では、クリスマスツリーまたはサンタキャンドルの作成、またXmas洞内アートギャラリーには、本学学生達の作品を展示。ミニコンサートではアカベラサークルKOCO' Aがクリスマスソングを披露するなど、地域の方々との交流も楽しみ、クリスマスムード満点なひとときを過ごしました。



# KUT INFORMATION | AUTUMN WINTER 2013

KUTの学生たちが取り組んでいる様々な活動や、先生方の研究成果等を一挙に報告します!

## お年寄りにも安全な交通へ 交通事故講演会開催

10月7日(月)、一昨年に続き『高齢者の交通事故に関する講演会』を本学で開催しました。現在の日本は、65歳以上の人口が2割を越え、「高齢社会」から「超高齢社会」に突入しています。高齢者を取り巻く交通情勢も厳しく、事故率・死亡率とも激増傾向にあります。とりわけ、高齢化が進む高知県において、高齢ドライバーの安全性を確保する事は、喫緊の課題です。

高齢ドライバーの安全性について、各方面の専門家が講演し、活動報告では、本学から朴啓彰客員教授が「地域交通医学研究室の活動」について、熊谷靖彦教授(地域連携機構)が「KUSANONE ITS」、片岡源宗助手(同機構)が「県内外の事故の状況」、永原三博客員研究員からは「YUZURIAI ロード支援システム」について、それぞれ報告がありました。



## たのしいふしぎ体験 3大学が合同教室開催

9月29日(日)、キャンパス・イノベーションセンター東京(CIC東京)にオフィスを持つ、本学、山形大学、秋田大学の3大学が合同で、「不思議で楽しい!科学・理科体験教室」を開催しました。

本イベントは、CICや各大学の取組を紹介し、子どもたちに理科・科学の不思議な現象を楽しく体験していただくもので、本学からは繁樹博昭准教授(情報学群)が登場。教室では「目でなく、「脳」がみる」をキーワードに「ARToolkit」を使用して現実世界にバーチャルな世界を融合して拡張された現実世界を体感したり、見ると錯覚をおこす不思議な画像や映像が体験でき、同研究室の学生が小学生や保護者に脳科学の魅力を伝えました。

また、繁樹准教授は、11月21日(木)～23日(土)、高知ちばさんセンターで行われた「第2回ものづくり総合技術展」にも同テーマで参加。高校生の参加者も多くみられ、大変にぎわいました。



## 留学生に高知を紹介! 生け花にも挑戦

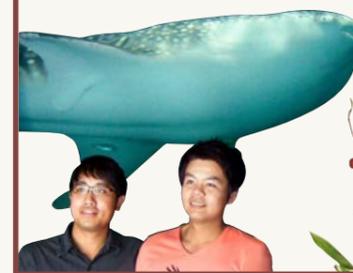
9月22日(日)、23日(月)の両日、足摺岬や四万十市などで、留学生たちに日本文化と高知県への理解を深めてもらうための日本文化県内研修を行い、タイ、中国、インドネシア、カンボジアからの博士課程の留学生24人と、日本人学生5人が参加しました。

初日は足摺岬の見学を兼ね、同岬近くのジョン万次郎資料館に立ち寄り、ジョン万次郎が明治維新に与えた影響や、咸臨丸で米国に渡ったことなどを学びました。翌日の、土佐清水市の海洋生物研究所以布利センターでは、ゆったりと泳ぐ巨大なジンベイザメを見学した後、四万十川で、明

治末期から続く舟母船(せんばせん)に乗船。木炭の運搬でにぎわっていたという地元の歴史を学習し、近くの海洋堂ホビー館四万十にも足を運びました。

中国からの留学生劉意さんは「足摺岬の灯台が大きいので驚いた。四万十川の清流もすばらしかった」と語っていました。

また、11月10日(日)、高知市文化プラザ「かるほーと」で、10月に入学した留学生が高知県華道協会の招待を受け、「第67回秋季いけばな展」に参加。専門家による作品を鑑賞後、先生の指導で高知の代表的な花「ミサトレッド」などを花材に生け花を体験。彼らにとって初めての生け花作品を会場に展示していただきました。



## 本学初! 未来の官僚候補誕生

人事院は、平成25年度の国家公務員採用総合職試験の合格者を発表し、システム工学群建築・都市デザイン専攻の山崎彬美さんが本学から開学以来初の合格者となりました。

本試験は、政策の企画立案等の高度知識、技術または経験を必要とする業務に従事するいわゆる「官僚(将来の幹部候補)」と呼ばれる公務員を採用するもので、これまでの国家I種、II種、III種試験を廃止し、新たな人材供給源に対応し、多様で有為な人材確保に資す試験体系とするため、昨年度「総合職試験」「一般職試験」などに再編されました。

山崎さんは、本試験合格者が志望府省等に採用されるための重要なステップである官庁訪問(各府省等にとって適した人材か、行政に対する意欲がどの程度であるかなどを評価し、採用者を選定するもの)を経て、10月に総務省に内定されました。

## 巣立つ学生を秋に見送る 秋季卒業式・学位授与式

9月30日(月)、秋季卒業式・学位授与式を執り行い、修士課程1名、博士後期課程5名が本学を巣立ちました。

学位授与に続き、佐久間学長からは「それぞれの方々それぞれの学問分野で長い期間にわたって研鑽に励まれた結果が本日の学位授与につながったのだと思っております。この学位記というのは皆様方の努力の賜物であると同時にまた、社会からみまると一定の専門分野の能力を持った者としての資格をあらわすものでもあります。そういった武器でこれから皆様方が社会へ出られ、それぞれの専門分野をいかして活躍されることを心から願っております。」とはなむけの言葉が贈られ、卒業生・修士代表のKhanit Matraさん(基盤工学専攻 博士後期課程)からは、「KUTの学生歌『フライング・フィッシュ』には、「夢を持ち続ければ飛べる」という意味の歌詞があります。私もグローバル化する世界の中で通用する、立派な研究者になれるよう、KUT卒業生としての誇りを胸に、研鑽を積み重ねる所存です。」と謝辞が述べられました。



# KUT INFORMATION | AUTUMN WINTER 2013

## ふ しぎがいっぱい!イオンに 宇宙&地球はかせ大集合!

11月2日(土)、イオンモール高知にて、地球電磁気・地球惑星圏学会主催、本学共催の一般公開イベント『宇宙☆地球はかせが大集合』を、小中学生、一般の方を対象に開催しました。

大学・研究機関の研究者「はかせ」が高知に大集合し、「身近なワンダーランド 宇宙と地球のふしぎがいっぱい」をテーマに、実験、展示、クイズを通して小中学生にもわかりやすく宇宙のしくみを説明。柿並義宏助教(システム工学群)も「ロケットはかせ」として来場者の質問にこたえていました。



## 数 学っておもしろい! 高校生のコンクール開催

11月9日(土)、本学地域教育支援センター主催の「高知県高等学校数学コンクール」の表彰式を行い、磯部雅彦副学長より以下の生徒に各賞が授与されました。

- 【最優秀賞】 山中美由さん(土佐高等学校 2年)
- 【優秀賞】 武市紘幸さん(土佐塾高等学校 1年)
- 【奨励賞】 宮本真由さん(土佐高等学校 2年)
- 島内幸啓さん(土佐高等学校 2年)

本コンクールは、高知県内の高校生のうち、数学への興味・関心が高い生徒を対象に、数学的な視点と思考力を培うことを目的として実施され、本年度は13名の応募がありました。当日は、出題された問題の解説も行われ、普段高校生が触れるものとは異なる問題へのアプローチ法などの説明がありました。

本コンクールで、最優秀賞を受賞した土佐高校2年山中美由さんは、「問題は難しかったけれど、普段の限られた時間の中で解く問題と違い、長い時間をかけ取り組むことで、改めて数学の面白さを感じる事が出来ました」と語ってくれました。

## 実 践する人を育てる! 地域活性化システム論開講

今年度もマネジメント学部が内閣府と連携し、地域活性化システム論を開講しました。

2008年から続くこの講座。今年度は、10月27日(日)を皮切りに、11月24日(日)までの計3回、中央省庁、大学教員及び経営者、高知県内で主導されている方など、各地で地域活性化に携わって来られた、多方面の講師陣をお招きし、講演、パネル討議等を通じて、実践的な人材育成を推進することを目的に開講しました。

講義当日は、県内の自治体職員、地域の皆様だけではなく、地域活性化に興味を持つ高校生の姿もあり、講演後のパネルディスカッションでたくさんの質問が飛び交いました。アンケートでも、講座の開催継続を求める声をいただくなど、非常に高い評価をいただきました。



## 物 部川を守ろう! 地域の方とシンポジウム

11月30日(土)、第2回物部川を考えるシンポジウム「つながちゅうがよ! 物部川」(物部川に感謝する実行委員会、物部川21世紀の森と水の会主催)が本学講堂で開催され、物部川流域の住民、本学学生など約150名が参加しました。



同シンポジウムでは、主催者団体会員による、今年の2月に行われた第1回シンポジウム後の活動報告や物部川の現状を表現した寸劇や、本学学生による欧州の森林管理の紹介、パネルディスカッション等が行われ、物部川の環境保全・再生に向けて、流域全体が一体となって取り組んでいくことの重要性を参加者に訴えかけました。

お昼休みにはアユの塩焼き、シカ肉カレーがふるまわれ、参加者は自然の恵みに改めて感謝するとともに、物部川の抱える濁水、シカの食害等の問題解決に向けた取り組みと、その必要性に理解を深めている様子でした。



## ゲ ンバから学べ! 建築・都市デザイン「企業見学会」



9月26日(木)・27日(金)、システム工学群建築・都市デザイン専攻の3年生47名が参加し、「企業見学会」が行われました。

これは将来の職業や研究室選択等の参考とすべく1999年より毎年この時期に開催され、同3年生を対象とした重要行事のひとつとなっています。

建築、土木、デザイン、マネジメントに関する工事現場や施設等を見学する内容となっており、今年度は神戸市の明石海峡大橋、人と防災未来センター、大阪府のグランフロント大阪、吹田道路管制センター、新名神高速道路の芥川橋PC工事と箕面トンネルを訪れました。

なお、実施にあたってはネクスコ西日本株式会社のご協力をいただきました。

## 高 知大学と初コラボ! オータムコンサート開催

9月29日(日)、本学吹奏楽部 WIND BRASS がオータムコンサートを開催しました。

今回は高知大学吹奏楽団をゲストに招いた合同演奏会で、2013年度吹奏楽コンクール課題曲Ⅳ・エンターテイメントマーチ、パイレーツ・オブ・カリビアン、アンパンマンのマーチなど全11曲を演奏いたしました。

吹奏楽部代表の沖本佳代さんは、「初めての高知大学吹奏楽部さんとのコラボでしたが、楽しく演奏することができ、感謝の気持ちで一杯です。例年より多くのお客様が来場され、「楽しかった」、「また聞きたい」など好評を頂きました。次の演奏会もお客様に喜んでいただけるよう頑張っていきたいと思います。」とコメントしてくれました。

ご来場、ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。



## 高 知初寄港! 「セユダル号」 165名と日韓大交流

本学が大学間交流協定を結ぶ韓国・国立木浦海洋大学の3644tの大型船「セユダル号」が、初めて高知に寄港、両校の学生、教職員が学術交流し、友好を深めました。

10月18日(金)、高知港に到着したのは船員、教員、学生合わせて165名。本学、高知県、高知市が主催する港での歓迎セレモニーは、本学吹奏楽部「WIND BRASS」による演奏でスタート。国際交流センター長の八田章光教授は「高知で多くのことを学び、韓国に持ち帰って伝えてほしい」と挨拶。申虎植船長と学生代表の李奉河さんは「この訪問が、友好の懸け橋になること



## が ん支援のかたち発掘 「リレーウォー・ライフ」に参加

10月12日(土)から13日(日)にかけて高知市城西公園で開催された「リレー・フォー・ライフ」に本学学生と教職員ら16名が参加しました。

このイベントは「がんは24時間眠らない、がん患者は24時間がんと闘っている」をメッセージとして、フィールドを歩くことで、がん患者・家族・市民医療従事者・行政・企業など多数の方の思いを一つにするチャリティーイベント。

学生らが、がん患者やがんを克服した方々とともに、24時間、交代で1本のたすきをつないで歩き続けました。また、12日昼に行われたステージイベントには本学アカペラサークルKOCO' Aが出演し、参加者を励ました。

がん患者への支援活動のあり方も様々であることを知り、参加学生らは、自分たちのできる支援活動の可能性について考える機会となったようでした。



## 廣 井勇博士に出会う旅 in 北海道

9月2日(月)~4日(水)、平成24年度に廣井勇賞を受賞した本学学生6名が北海道研修を行いました。

この賞は、高知県佐川町出身で日本の港湾工学の礎を築いたと言われる廣井勇博士の名を冠し、「学友を慈しみ熱き向学心を持ち、今後も学群又は学部のリーダーとして卒業までの間活動する意志を有する者」として、同級生及び教職員から推挙された学生6名に贈られます。

北海道研修はこの副賞として授与されたもので、学生らは港湾業務艇「ひまわり」に乗船して廣井博士が建設に携わった防波堤を見学し、みなど資料館でその建設経緯や博士の功績などの説明を受けました。最近では旅客船の入港も増えており、防波堤建設当時と比べると港の様子も随分変わってきているとのこと。学生らは時代の変化の中で、未だその役割を果たし続ける防波堤づくりに博士の偉大さに思いを馳せている



## 教 育研究の熱い交流 jeARn高知研究大会開催

10月20日(日)、「日本教育アクション・リサーチ・ネットワーク(jeARn)第3回全国大会高知研究大会」(jeARn主催)を、本学地域教育支援センターとの共催により同センターで開催しました。佐野正之横浜国立大学名誉教授が代表を務めるjeARnは、小集団の研究により、社会活動で生じる諸問題を解き明かすアクション・リサーチという実践研究方法を用いて、教室に根ざした授業改善の手法を探究するグループや個人の全国的ネットワークであり、お互いの研究成果の共有や交流を目的として、年1回全国大会を開催しています。

今年度の大会テーマは、「アクション・リサーチを通じた教師の成長と学び合い」。横溝紳一郎氏(西南女学院大学教授)の基調講演「アクション・リサーチの可能性と課題」で幕を開け、小中高の先生方による実践報告がありました。交流セッションでは、10名の発表者を中心に、参加者全員が経験や実践を語り合いました。次に行われたパネルディスカッションでは、弘瀬佐和教諭(津野町立葉山中学校)の実事例を元に、プロセス上の悩みや困難点と解決方法、必要としたサポート、成果について、中身の濃い議論が交わされました。

## 磨 け! 防災力。 防災訓練実施

10月22日(火)、地震発生を想定した防災訓練を実施しました。これは訓練を通じて、災害発生時における生命の安全を第一とする緊急避難等に対応する防災力を養うもので、全学生・教職員を対象に行われました。

また、防災イベントとして、(株)フタガミ防災アドバイザー楠瀬淳司氏より「南海地震対策を考える 基礎知識編」の防災ミニセミナーや、起震車体験・煙避難体験・消火体験、防災グッズ展示会が、セントラル池では救助ボートの実演等が行われました。



# KUT INFORMATION | AUTUMN WINTER 2013

## 意識が変わる！ 積極的な環境保全

10月11日と、本学の学生と教職員が活発に森林保全活動に参加しました。本学が取り組む物部川流域の環境保全活動が学生たちの間に定着しつつあります。

10月12日(土)、12名が三嶺の森をまもるみんなの会、高知中部森林管理署の主催により、香美市物部町・白髪山で植生を保護し、深刻な食害をもたらすシカの捕獲を効率よく行うための防鹿柵設置を行いました。

10月14日(月・祝)には、11名が物部川21世紀の森と水の会主催の「物部川の水づくり みんなで広葉樹の森をつくろう」に参加。香美市物部町・別府山 物部川ふれあいの森で有用樹種を活かすため、不要な雑木の剪定作業を行いました。ノコギリや剪定ばさみを使った作業に精を出しました。

11月2日(土)は、本学が高知県、香美市、本学後援会と4者間で協定を締結している「協働の森事業」の一環として、16名が香美市物部町の森林で間伐体験をしました。午前中だけの作業でみごと約20本を伐採。午後は、木材の集出荷施設「物部森林ストックヤード」を見学し、県産木材の流通について学びました。

翌週9日(土)は、「物部川21世紀の森と水の会」主催による香美市物部町・ヒカリ石国有林での間伐体験にも10名が参加。バスで現場へ移動しながら、物部川のダム、その機能低下による渇水を確認しました。間伐作業が始まると、経験豊富な学生が初参加の学生をサポートする頼もしい場面も。参加学生は「山の手入れ不足による土壌流出に改めて驚いた。もっとたくさんの工科大生にこの現状を知ってもらいたい。」と語りました。

高知の森林率  
84%って、  
知ってた？



## 未来の途上国支援とは？ 「JAL テック・キャラバン! in 高知」

11月22日(金)、本学が主催する『JAL ×コベルニク\* JAL テック・キャラバン! in 高知』が開催されました。このイベントは、日本航空株式会社とコベルニクの、「人をつなぐ、世界を結ぶ。プロジェクト」の一環として開催され、JAL 総務部 CSR グループ長の高由恵氏、高知支店長の五十嵐武氏より「JAL による取り組み紹介」、コベルニク共同創設者兼 CEO の中村俊裕氏から「コベルニクの活動と国際貢献のこれから」の講演があり、その後の懇親会では、今の私たちにできることの可能性など意見交換が行われました。

\*途上国の生活の質の向上と貧困削減などの課題解決を図る、米国 NPO 法人。



## 土佐山田を明るく元気に！ 「おはまる市」今年度も開催

11月17日(日)、香美市役所隣の「土佐山田平成日曜日」と本学学生団体とのコラボイベント「おはまる市」が開催されました。

これは、来場者が減りつつある同日曜日市を活性化したいという地元の方の声をきっかけに、学生有志により企画されたもので、昨年度に続いて2度目の開催。今年度は、11のサークルなど総勢120名を超えるボランティア学生が集まりました。

ステージイベントでは、吹奏楽、ジャグリング、アカペラに、よさこい演奏と、ちびっこからお年寄りまで楽しめる演出で、来場者を魅了。フォト同好会による同日曜日市の風景をきりとりた写真展では、購入希望者がでるほど好評でした。



## 3日間で270社超！ 大学説明・情報交換会

10月16日(水)、30日(水)、11月15日(金)の3日間、高知・東京・大阪の3会場において、就職に関する大学説明会・情報交換会を開催しました。

本会は、企業の皆さまをお招きし、本学の教育と就職支援の取り組みを紹介するとともに、本学に対するご意見やご要望をお聞かせいただく場として開催したもので、3日間で270社を超える企業の皆さまが参加されました。

会場内では、ご参加いただいた企業の皆さまに、本学教職員・学生が、本学の取り組みや研究内容等を説明し、企業の皆さまから率直なご意見を伺っている姿多く見られました。



企画・運営をした代表の光國裕大くん(システム工学群2年)は、「今回はまずは「人が集まること」を目標に、幼稚園児作品展や香美市クイズなど、新しいイベントを企画しました。大変なこともありましたが、工科大生と地域の方の連携の力を実感しました。後輩にちゃんと引き継ぎ、さらに楽しく地域を盛り上げられるボランティア団体にしていきたいです。」と感想を述べてくれました。

日曜日出店者のみならず、地域からも今後の継続的な取り組みに大きな期待が寄せられています。また、運営にあたっては、昨年度に引き続き、香美市商工会や香美市観光協会等のご協力をいただきました。



## 大きな視点で気楽に議論 「研究開発懇話会」開催

11月8日(金)、本学で行われた今年度3回目となる研究開発懇話会に、文部科学省顧問、元文部科学事務次官である森口泰孝氏が講師としてお招きしました。

本学では、研究開発等に関連する話題について、学内外の有識者を招いて気楽に議論できる機会をつくり、今後の研究活動や大学運営等の参考とすべく懇話会を開催しています。

森口氏の講演テーマは、「科学技術・学術を巡る最近の動向」。論文数やその引用数、学位取得者数などさまざまなデータから主要国との比較による国際的な位置づけや近年の変遷といった日本の現状分析にはじまり、我が国が進める科学技術政策と今後の展望に至る内容に、あらためて認識を深めることができました。その後の質疑では研究者、大学運営側等さまざまな立場での質問や、森口氏に意見を求める声があがるなど活発な議論が展開されました。



## 高校生 英語即興スピーチ に激励!本学学長賞授与

11月4日(月)、第66回高知県中学・高校英語弁論大会(主催 土佐教育研究会外国語部会、高知県高等学校教育研究会英語部会)が開催され、新設された「高校生英語即興スピーチコンテスト」において、優秀なスピーチをした3名の高校生に本学学長賞が授与されました。

このコンテストは、その場でトピック(今年のトピックは「My Treasure」「私の宝もの」)が与えられ、2分間即興で英語スピーチをするというもの。参加した高校たちは、難易度の高い即興スピーチに果敢に挑戦しました。友達、家族、ペットなど、それぞれの宝物について、思いを込めた楽しいスピーチが披露され、聴衆からは温かい声援が送り続けられました。本学長賞受賞者は次の3名です。

[Excellent Communicator] 池田奈央さん(土佐高校)  
[Excellent Entertainer] 泉 彩加さん(高知小津高校)  
[Excellent Speaker] 兵頭布実さん(土佐高校)



## おいしい「食のキャラバン」 大好評のうちに閉幕

「郷土の植物再発見～食文化観光の開拓～」をテーマに1年間にわたり全6回開催された「食のキャラバン」が、県内地域関係者のご協力のもと、大好評のうちに幕を閉じました。

下半期の第4回は「植物と大地～海辺でみられる救荒植物～」をテーマに、室戸ジオパークで3D映像を用いて地球の動きを学び、蘭を中心とした室戸で見られる植物の学習を行いました。第5回は波介山展望公園をフィールドに食べられる植物を子どもたちと一緒にハンティング。とれた植物を調理し、「子どもの肥満と食の環境」や「食育と口の機能」といった観点から食育の大切さを学びました。最終回は「食のキャラバン」が提唱し



てきた「地域のあらたな魅力づくり - 高知の植物の多様性を活かした豊かな食文化の再発見」にふさわしく「漢方と食滋養」、「高知の在来種(伝統食材)」について学びました。

そしてなにより、室戸の婦人会の皆様による「室戸の植物資源を活かしたお弁当」、野菜ソムリエの方々との野草のキッチンやイラクサのジェノベーゼといった「土佐のモーニング」、シマサルナシやガマズミなどの山の果物で作るタルトやスムージーといった「山茶と郷土の甘味」などが堪能できるという、「見て、聞いて、食べて、ひらめく」驚きと新たな発見をもたらした、記憶に残る「味覚」ワークショップとなりました。



## 硬式野球部が 新人戦で準優勝!

10月13日(日)～14日(月)に行われた、1・2年生のみの出場による「第二回四国地区大学野球新人戦」で、硬式野球部(男子)が準優勝を果たしました。

本学はまだ二部リーグですが、初戦で今年の春季リーグ(一部リーグ)の覇者に勝利しました。今大会はすべて一部リーグの大学と対戦して準優勝できたので、部員にとっても大きな自信となりました。

まだまだ未熟なチームですが、今後とも是非応援の程よろしくお願い致します。

【試合結果】  
一回戦:高知工科大学 6-5 四国学院大学  
準決勝:高知工科大学 7-3 愛媛大学  
決勝:高知工科大学 0-4 香川大学



## ナノテクでつながる輪 活発な研究発表も

11月16日(土)、本学ナノテク研シンポジウム2013を開催しました。同シンポジウムは、学内外のナノ材料研究者の交流を通じて、研究をさらに活性化することを目的として、年に1回開催しています。

第3回目となる今回、伊藤誠吾氏(こなか電子工房)が「準静電界検出センサーの開発と電子デバイス評価への応用」、小向拓治氏(ニッタ(株))が「カーボンナノチューブの大学内研究と企業内応用開発」を特別講演。参加者は50名を超え、若手・学生による研究発表では、学内外から7件の口頭発表があり、盛会に終えることができました。



## 起業家コースが ハイテク総会開催

11月24日(日)、本学大学院起業家コースの「記念講演・同窓会、総会」が開催されました。本コースは、平成11年、日本の工学系として初めての社会人教育大学院コースとして開設され、東京、大阪、高知教室での遠隔授業、集合セミナー、国際テレビ会議などを通して研究を行っています。これまで、国内外の多種多様な業界・職種の方々145名が本コースを修了(修士:93名、博士:52名)し、今年度は38名が在籍しています。

この度、各教室をケーブルテレビでつなぐ同コースならではの同窓会スタイルで、31名(高知13名、東京6名、大阪12名)が参加。同窓会会長、弥勒美彦氏(株)ミロク社長が「(株)ミロクの事業ビジョンと課題～地方の中小企業生き残り戦略の軌跡～」を講演後、和やかな雰囲気の中、近況報告等が行われ、各地ごとの懇親会が持たれました。

弥勒氏より「昨年度に続いての総会です。このような機会に卒業生と大学のネットワークが広がり、強くなっていくことを期待しています。」とコメントをいただきました。



## 原 佳菜絵さんが全日本学生 選抜選手権出場権を獲得

11月13日(水)～16日(土)に兵庫県ペイコム総合体育館で行われた第80回全日本大学総合卓球選手権予選大会(日本学生卓球連盟主催)で、卓球部の原 佳菜絵さん(マネジメント学部3年)が、女子シングルスでベスト16入りし、第10回全日本学生選抜卓球選手権大会の出場権を獲得しました。

原さんは「ベスト16という結果について、正直実感がありませんが、とても嬉しいです。地道に頑張ってきて、このような結果に繋がると、本当に良かったと思います。また、支えてくださった先生やチームの皆様、応援してくださった方々に感謝の気持ちで一杯です。この結果に満足せず、更に上位を目指し頑張っていきたいと思えます。」と意気込みを語り、濱田美穂監督も「初戦から強豪との対戦が続く中勝ち進み、ベスト8決定戦では今回2連勝を果たした選手と対戦し2セットをもぎ取りましたが4対2と惜しくも敗れました。もしかしら勝てたかもしれない内容でしたので、私としては非常に残念です。本人はこれから今まで以上に努力したいと言っておりますので、まだまだ伸びると思います。」と激励しました。



## 毎 日が国際交流 「International House」完成

本学留学生と国際交流に積極的な日本人学生を対象にした学生寮、「国際交流会館: International House」が完成し、10月から新たな生活が始まっています。先だって9月24日(火)に行われた落成式典には関係者40名程が出席し、館内の見学や餅投げをして祝いました。

4階建て、84室(すべて個室)を擁する同館は、1階には調理施設を備えたイベント用スペースと会議室、各階にはラウンジが設けられ、快適で気軽に国際的なコミュニケーションをはかれるつくりになっています。また、もともと同館敷地に建っていた茶室を隣接して復元し、茶道部の稽古だけでなく、留学生も日本文化にふれられる仕組みになっています。

国際交流センター長の八田章光教授は、「ここはもはや国際交流会館ではなく、International Houseです。日本語の名称と呼ぶ必要がないほど、留学生と日本人学生、教職員、地域の皆さん、地域の学校に通う児童生徒の皆さんが普段から気軽に交流し、心から理解し合う交流の場所と機会になることを願っています。外国人が違和感なく安心して生活し、勉強や研究に打ち込める体制を整えることができれば良いと思います。」と語りました。



## 恒 例!香美警察署と 秋の交通安全運動



9月25日(水)、学生8名が地域住民の方々と協力し、香美警察署と本学共同による秋の交通安全運動を実施しました。学生団体P-S(ピース)の中尾諒くん(システム工学群4年)による交通安全宣言の後、学生らは香美警察署前を通行するドライバーに「安全運転をお願いします!」と元気な声で、交通安全を呼びかけました。

毎年、春と秋に実施する同運動ですが、本学では今後も積極的にこのような啓発活動を継続してまいります。

# イイセンスイ

Vol.7

先生自身が日々感じていることを、ちょっとイイセンスくらい語ってもらいました!

今回言い過ぎる人  
かい よしろう  
甲斐 芳郎 センセイ



わかったフリからわかること。

工科大学の学生は、勉強のしすぎだ。

と言うと、「俺だ、俺だ。」という学生もいろいろ、君の事ではない。教員から言われた内容が理解できずに、一所懸命、教科書を読んで、わからなくても分かるまで頑張っている君のことだよ。

勉強して分かることもあるけれども、実は、勉強して理解できるなら苦労はしない。とは言え、勉強せずに理解できるわけもない。なら、どうする。

おそらく、そこそこ勉強したところで、わかったフリを試してみるのだ。そして、その偽りの知識を持って、友人に教えてみるのだ。できれば、既に内容を理解した友人に教えてみるのが有効だと思う。教えていると、何が本当はわかっていないのかわかってくる。そして、教科書が伝えようとしていることが、なんとなくわかってくると思うよ。

友人に勉強を教えてもらって、助かった、とても勉強になった、と思っている人も多いかもしれないが、実は君に教えた友人の方がもっと勉強になっていると思うよ。感謝されるのは君の方かもしれない。

わかったフリをした知識を実際に使ってみることも重要だ。高校までの基礎的な勉強とは違って、大学での授業は実社会で実際に用いられている知識を授けている。きつと試してみる機会はいくらでもあるはずだと思う。

最後に、その苦しい努力の結果、なんとかわかった気になった君。もっと、自信を持とう。

勉強もせずに理解できた人と比べて、君は随分長く深く考えたじゃないか。あまり理解できていないことに君は気がついていないから、とてもじゃないけど自信なんか持てないと思うかもしれないが、そうじゃない。一所懸命考えたその時間が宝物なんだ。社会に出てから、その悩んだ経験が間違いなく君にお返しをしてくれる。もっと自信を持とう。

ちなみに、自信は心の中に持っておくものです。そのところ誤解しないでね。

えっ?これイイセンスイのコラムなの?言いすぎていないと思うけどなあ。本当にそう思っているもの。

オシマイ



わかったフリから始まる勉強法もあるんだね!

## 2013 秋冬受賞者一覧

### 2013年度応用物理学会中国四国支部学術講演会 発表奨励賞 受賞

- 右川貴子(大学院 修士課程 物質・環境システム工学コース2年/前田研究室)
- 角田祥明(システム工学群4年/八田・古田研究室)
- 小路紘史(大学院 博士後期課程 基盤工学コース1年/八田・古田研究室)

### IUMRS-ICAM2013/12th International Conference on Advanced Materials EXCELLENT POSTER AWARD

- 李 昕(大学院 博士後期課程基盤工学コース2年)

### 日本経営診断学会 第46回全国大会 日本経営診断学会賞 診断事例優秀賞

- 川村 悟(大学院 博士後期課程起業家コース1年)

### 第10回『薄膜材料デバイス研究会』研究集会 スチューデントアワード

- 介田忠宏(環境理工学群4年/古田守研究室)
- 竹之内良太(環境理工学群4年/古田守研究室)

### 第134回地球電磁気・地球惑星圏学(SGEPSS) 学生発表賞(オーロラメダル賞)

- 河野紘基(システム工学群4年/山本研究室)

### APHW 2013 (第6回アジア太平洋地域水文水資源協会国際会議) Outstanding Presentation Award

- 渡邊法美教授(マネジメント学部)

### ECI国際会議 Semiconductor Technology for ULSI and TFT IV Overall Poster Winner

- 古田守教授(環境理工学群) ■川原村敏幸講師(ナノテクノロジー研究所)

### 応用物理学会 国際会議 AM-FPD'13 AMFPD-ECS Japan Section Young Researcher Award

- 王大鵬助教(古田守研究室)

### 2013年日本金属学会秋期講演大会 学術貢献賞

- 谷脇雅文教授(環境理工学群)

### 全国イノベーションコーディネータフォーラム2013 若手賞

- 佐藤 暢社会連携専門監

### グッドデザイン賞/第3回高知県建築文化賞「木造文化賞」

- 吉田 晋准教授(システム工学群)

### 平成25年度四国地方発明表彰 日本弁理士会会長奨励賞

- 熊谷靖彦特任教授(地域連携機構)
- 岡 宏一教授(システム工学群)

### 平成25年度四国地方発明表彰 実施功績賞

- 岡村甫理事長



イイセンスイ  
高知工科大学  
広報担当 前田



開学記念日である11月7日(木)、平成25年度開学記念式典が執り行われ、学生への各種表彰ならびに名誉教授称号授与が行われました。

学長表彰

	2年次生 (学長賞)	3年次生 (前年度成績優秀者)	4年次生 (前年度成績優秀者)
システム工学群	徳永 貴昭 佐竹 宏太	高木 耕平 長谷川 悠 山下 崇仁 波多野 楓華 山下 茜 徳永 裕二 阪口 神童 町田 耀平 佐藤 博則	太田 琢也 村上 翔太郎 松崎 一也 佐藤 孝充 市川 幸平 岡崎 未来 波多野 勇氣 米田 圭佑 永井 悠河 和泉 絵梨香
環境理工学群	安岡 杏紗	柴内 博 影山 奈未 村岸 建吾 上館 力也 小松 真也	井戸本 彩 小柳 亮 横山 雄大 本城 良太 祖父江 綾乃
情報学群	林 憲佑	宮崎 玲奈 渡部 弘章 中山 佐和子 武政 里枝 松下 和生	川村 卓也 三木 悠平 福井 さゆり 土井 智道 鳳 大希
マネジメント学部	福島 舞子	長畑 ひろみ 大道 麻奈 朝日 康介 西岡 真弥 福岡 梢	池田 尚哉 中山 雄紀 濱田 将 川島 友李亜 山岡 理紗

2年以上の学群・学部生で学業成績が優秀な学生に対して与えられます。

教育本部長表彰

人文・社会科学等科目成績優秀者			自然科学等科目成績優秀者		
システム工学群	環境理工学群	マネジメント学部	システム工学群	情報学群	マネジメント学部
山下 茜 山下 崇仁 長谷川 悠 和田 浩輝 高木 耕平 大森 剛志	上館 力也 西村 咲希 情報学群 中山 佐和子	陳 葉茹	山下 茜 佐藤 博則 岡部 祐紀 長谷川 悠	中山 佐和子 宮崎 玲奈 谷村 直哉 池田 裕香 松下 和生	西岡 真弥

大学共通科目の「人文・社会科学等科目」「自然科学等科目」において優秀な成績を修めた学群・学部3年次生に与えられます。

学長褒賞

個人	個人 (ペア)	団体
マネジメント学部 後藤 真生紀(1年) 西森 賢(3年) 中川 湧介(1年) 原 佳菜絵(3年) 口羽 雄吾(1年) 溝淵 真由(3年) 田中 俊輔(1年)	マネジメント学部 重本 愛美(3年) 成田 湧介(1年) 澤本 あずみ(1年) 村田 侃生(1年) 宮本 卓也(2年) 谷本 優太(2年)	女子卓球部 ソフトテニス部 男子卓球部 ソフトボール部 香美市を盛り上げ隊 よさこい運営委員会

課外活動において顕著な成績、業績を修めた者、団体に与えられます。

岡村甫賞

マネジメント学部  
福島 舞子(2年)  
入学後、卓越したスポーツ実績を上げるとともに、学業成績が特段に優秀な者に与えられます。

岡村甫奨励賞

マネジメント学部  
松山 明花(3年) 岡田 夏季(2年) 佐藤 静香(2年)  
入学後、課外活動に活発に取り組む、他の部員の模範となるべき活躍をしている者で、学業成績が優秀であると学長が認める者に与えられます。

廣井勇賞

システム工学群  
機械系 阪口 神童  
電子系 水本 聡  
建築系 新川 晴也  
環境理工学群  
大島 和将  
情報学群  
宮崎 玲奈  
マネジメント学部  
陳 葉茹

学友を慈しみ、熱い向上心とリーダーシップを持ち合わせた者として、同級生及び教職員が推挙する学群・学部3年次生に与えられます。

名誉教授授与

中田 慎介  
松元 信也  
岡田 守

本学の教授として多年にわたり勤務し、教育・研究面で優れた功績を残され、退任された方に対して授与されます。

(表記は全て敬称略)



教育講師室 講師 杉田 彰久先生

単位を取るのに苦労している学生も多いはず。もしも、新しいジブンを発見できて、おまけに単位も取れるとしたら…!? 今回は、KUTの先進的な「チャレンジポイント制度」をご紹介します!



四代目学生特派員  
右: 西本 高志(情報学群2年)  
左: 中村 真也(情報学群2年)

チャレンジポイント制度

- ものづくり型** 自分の特技や学んだ知識や技術を活かした作品制作をする
- 体験型** 耐久レース、マラソンなど「課題」を設定しそれに向けて取り組む
- 資格取得型** 今後の学生・社会生活に有意義と考える資格を獲得する
- 調査企画型** 課題を調査し報告する、新しい事業の創造を検討しコンテストに応募することも
- 地域貢献型** 地域に密着し課題を発見しながらそれを解決する取り組みを行う
- 取得の流れ**
  - 申請書に活動目標や具体的な取り組み内容を記入
  - 取り組み内容がチャレンジポイント委員会で審査され、仮ポイント決定(達成目標だけでなく、取り組み過程も重視され加減調整がある)
  - チャレンジ達成後、最終的な審査を経てチャレンジポイントが付与。ポイントは何度でも合算可能で5ポイント貯めると1単位申請でき、履修登録なしでいつでも単位取得に利用できます。



これまでのチャレンジポイント

- 自転車で本州縦断 (5pt)
- 四国八十八ヶ所徒歩お遍路 (5pt)
- 早明浦ダム地区活性化活動 (4pt)
- シヨルダーキーボードの製作 (4pt)

サイクリング同好会・石浦一輝さん

**自分だけの挑戦**  
自分の長所を活かして単位を取得できる! KUTにはそんな素晴らしい制度があるのです。皆さんに詳しくお伝えするために、教育講師室に伺いました。「チャレンジポイントを貯めると単位認定されます」そう語るのは教育講師の杉田先生。チャレンジポイント制度は、チャレンジしたいことを宣言して達成できればポイントが付与される制度。この制度を活用すれば自分の興味や特技を活かした実績を、「単位」という形で証明できます。学生にとっては、今までやったことのない有意義なことにチャレンジする絶好の機会です。左の

**激走! 本州縦断の13日間**  
「自分が挑戦できるギリギリのラインはどこなのか、実力を証明したかったんです。」サイクリング同好会の石浦一輝さん(環境理工学群3年)が、チャレンジポイント制度を活用して本州縦断に挑戦したのは、2012年8月のことです。約2週間で青森県から山口県まで走破するため、1日で平均143km走る綿密な目標を立てました。「400mmの豪雨で道が通行止めになりましたが、止まる訳にはいかず引き返してルー

トを変えて走り続けました(笑)「途中でやめたくなかったことはなかったですか?」この問いに、「いろいろな人たちが応援してくれました。声をかけてくれたり、差し入れをいただいたり、とても励みになりました。」次は日本一周に少しずつ挑戦したい! 13日間の挑戦を終えた石浦さんは笑顔で語ってくれました。

「人が育つ大学」の仕組みのひとつ

「大学生のうちに様々なことに挑戦してください。アクティブになりましょう! チャレンジポイント制度は「人が育つ大学」を目指すためのひとつのシステムなのです。自ら挑戦して課題テーマを達成する計画力と実行力、実践する中で困難に耐える忍耐力も必要です。その達成経験を得ること、その経験を今後の学生・社会生活に役立てることが狙いなんです。」と杉田先生。大学生生活を普通に通うか、それともひと味違ったものにするかは自分次第です。自分の中で「壁」を作らずに、ぜひチャレンジポイント制度を利用して果敢に挑戦し続けよう!

ジ ッ カ ン n o t e

- 西本 「大学生活の間に何か大きなことに挑戦したいな!」
- 中村 「チャレンジポイントを活用しながら、やりたいことにどんどん挑戦していけるといいね!」



まちの KUT 応援団

# がんばらちゃっネ! 工科大⑪

Machi no KUT Ouen-Dan Report

今回の  
インタビュー

システム工学群

八田章光 教授



今回の応援団は時久恵子 香美市教育長。小・中・高校等への出前授業や学校サポーター制度、図書館提携など香美市と本学は連携体制にあり、市の教育振興基本計画策定にも取り組んでいるところです。時久先生は、インタビューの八田教授にとって「教育」への想いを共感できる存在。二人の熱い教育談義が展開されました。

——時久先生との出会いは、確か先生が楠目小の校長先生の時。「今から子どもがタクシーで先生に質問にいきます。」という電話。あれは衝撃的で、子どもが自由にのびのびとできる環境、体制が小学校にあることに感動しました。

私は、香美市の全学校をそのような体制にしたいと考えています。今って、たぶん家庭でも学校でも子どもたちが成功するようにルールが敷かれていて、周囲の手立てができすぎているように感じます。子ども自身が大失敗したり、うまくいったと思ったり、自分でやった喜びを感じる事が少ないのではないかと思います。もしかしたら、自分で考えて行うことを、逆に大人が止めているのではないかという気がします。学校で、子ども自身が考えたことを実践しながら学んでいくことができれば、もっとのびやかに育つだろうと思うのです。

——そんな子は、大学に入ってもまたぐつと伸びてくれます。やはり、モチベーションがすごく低い大学生が多いというか…。小・中・高校のゴールは何かっていうと大学入学。だから入学後のことはあまり考えてないんですよね。たまに「大学に何しにきたん？」って新入生に突然に聞くと、きょんとするんです。もっと目を輝かせて、「これからこれやります!」「こんなことしたいです!」って言ってもらいたい。

応援団員 香美市教育長

## 11 時久恵子さん

子どもたちにとって、身近な大学であり続けてほしい。

たぶん、やりたいことは、いっぱい持っているはずなのです。子どもたちや学生の中から何か生まれてきてほしい。例えば、面白いイベントでもいい。やってみて、手ごたえを感じたほうが伸びる。これからの社会、待ちの姿勢ではだめです。そこがね、今の子どもは、たぶん弱いのですよね。

——工科大も教職課程ができて、先生を目指している学生が結構いまして、香美市の小中学校には学校サポーターでお世話になっています。そのおかげもあって、実は、教員採用試験もかなりの合格率なんです。

小中学校の校長先生方は、学校は大変助かっているけど、工科大生のためになりゆうろうかと心配をされていたので、大変うれしいです。様々な夢を持っている工科大生が小中学校にきて関わりをもつてくださることは、子どもや先生にとっても良い体験になっています。

——さらに、本学や本学学生に期待することはありますか？

工科大には大きな期待を持っています。教育長としての立場からは、工科大と市の教育をどうしたらもっとつなげていけるのかが、一番の大きな課題ですね。

例えば、当時の楠目小学校の子どもは工科大のことを、自分たちの疑問をなんでも解決してくれるところだと思っていて、何か困ると工科大へ行こうって言うていました。だから、子どもたちにとって、それぐらい(工科大が)身近な存在であり続けてほしいですね。私自身は工科大生がこの町に住んで良かったと感じられるようにこの町の教育を創っていかなければいけないと思っています。

AFTER INTERVIEW

### インタビューを終えて

大学生もそうですが、学校の児童生徒は様々な環境で育っていて、それぞれ性格や考え方、価値観、行動の仕方も異なります。同じ学校の教室と一緒に楽しく学ぶことは実は簡単なことではなく、先生方のお仕事のたいへんさがわかります。子どもが大好きという時久先生はいつも真正面から、全力で子供たちと向き合っておられます。工科大で学んで学校の教員を目指している学生の皆さんも、子供たちとのふれあいを心から楽しめる、そんな先生になってほしいと願っています。

(八田教授)

